

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	早田 泰大	学校名	宮崎県小林市立西小林中学校
実施学年	中学校3年	教科	社会(公民的分野)
単元名	地球社会と私たち 「さまざまな国際問題」		

### 《学びを深めたいポイント》

本実践では、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を有機的に機能させた実践を通して、「学びとる教育」の在り方を提案したい。本単元は、中学校3年生の大単元「地球社会と私たち」の「さまざまな国際問題」である。本単元の内容には地理的分野や歴史的分野での既習事項が多くあるからこそ、生徒が主体的に考えたり話し合ったりする活動を通して、それらの既習事項を活用しながら、先進国と発展途上国の両方の視点から結論付けさせることで学びを深めたい。その過程において、個人で調べたり考えたりする活動と、それらを他者と共有したり話し合ったりする活動を繰り返すことで、課題解決を自力で解決する力や、他者と協働して考え抜く力を育成したい。

そこで、以下の3つがポイントである。

- (1) 生徒が主体的に学びを「計画」「実践」「振り返る」活動を取り入れることで、学びを調整しながら課題を自力解決したり、目標を達成したりする力を育成する。
- (2) 他者と考えたり話し合ったりする活動を取り入れることで、他者と協働しながら課題解決に向けて考え抜く力を育成する。
- (3) 思考ツールやインターネット検索を活用することで、他者に分かりやすく伝えたり論理的に説明したりするスキルを身に付ける。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

上記の力・スキルを育成するために、以下の3つを実践する。

- (1) 単元シートの工夫・改善を図り、第1時に発表ノートでまとめて配付することで、生徒が学習の見通しを持ち、自分なりの学習計画を立て、振り返りまで効率的に行うことができるようにする。
- (2) 発表ノートや気づきメモ、及びそのグループ機能を、生徒それぞれのタイミングと手段で自由に活用させることで、個別最適な学びと協働的な学びを有機的に機能させる。
- (3) 気づきメモのグループメモ機能、発表ノートのグループ機能を教師が意図的に活用させることで、生徒が多様な考えや根拠に気づき、学びを広げたり学びを深めたりするようにする。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
第一時	<p>1 単元の課題をつかむ。</p> <p>①学習問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     現代のさまざまな国際問題はどのように解決すればよいのだろうか？                 </div> <p>②学習の見通しを持ち、学習計画を立てる。</p> <p>2 「学習のまとめ」に取り組む。 【写真2】</p> <p>3 「学習のまとめ」の確認をする。</p>	<p>・単元の学習問題に対する予想を気づきメモのグループメモで共有する。</p> <p>・発表ノートを配付し、説明する。</p> <p>【写真1】</p> <p>・教師端末の画面一覧機能で生徒の進捗状況を確認する。</p>	<p>・共感したり新しい学びがあったりした意見には「いいね」をさせ、生徒の自己肯定感を高める。</p> <p>・支援が必要な生徒を予測し、画面を見つつ机間指導も行う。</p>
第二時	<p>1 国際問題の画像や資料を検索し保存する。</p> <p>2 見方・考え方を習得する。</p> <p>①以下の3つのテーマを班毎に与え、さらに班内で先進国と発展途上国に分かれる。</p> <p>A 環境問題 B 資源・エネルギー問題 C 貧困問題</p> <p>②先進国と発展途上国それぞれのグループで、国際問題の解決か自国の発展・課題解決のどちらを優先するか調べ話し合う。</p> <p>③調べた結果を、グループごとに共有する。</p> <p>④相手に立場に立って考え、もう一度、どちらを優先するか考える。</p> <p>⑤教師による「社会的ジレンマ」の説明を聞く。</p>	<p>・分からない人には、ペアやグループで気づきメモ機能で共有するよう促す。</p> <p>・発表ノートを配付し、記入させ、後で他者と共有することを伝える。</p> <p>・教師端末の画面一覧機能で生徒の進捗状況を確認する。</p> <p>・根拠を見つけることが苦手な生徒には、検索ワードや教科書の該当ページを教える。</p> <p>・共有する際に、他テーマの人に説明させ言語活動を充実させるとともに、異なるテーマの発表ノートを自分の発表ノートに追加させる。</p>	<p>・普段から自由に諸機能を活用させることで、生徒自ら共有できるようにする。</p> <p>【写真3】【写真4】</p> <p>・1枚の発表ノートのみ持ち帰らせるようにする。</p>

第三時	1 本時の学習目標を確認する。		
	【学習目標】外務省の職員の立場で、国際問題解決のレポートをつくろう！		
	2 2つの立場の考えを発表ノートにまとめる。【写真5】	・前時の発表ノートを参考にさせ、ノートを追加して完成させる。	・自由に教室内を移動したりグループ機能を活用したりしてもよいことを伝える。  ・学びを広げ深めるために、教師が指示を出して閲覧させる。
	3 単元のまとめの答え・結論を創造する。	・答え・結論の創造が難しい生徒には、教師がヒントを与えたり、友達とグループ機能を活用させたりするよう促す。	
4 他者の考えを知り、答え・結論を再構築する。	・提出箱を互いに閲覧できる設定にして共有させる。		

【写真1：ルート&プランシート】

## ルート&プランシート 「さまざまな国際問題」

### 学びのRute

**1** 国際社会のさまざまな問題をおさえよう♪

- ① 「学習のまとめ」で用語を整理♪
- ② 国際問題の証拠画像を保存せよ♪
- ③ 完全学習P72・73♪

**2** いろんな視点から「国際問題」を考えよう♪

- ① 現代の国際問題を理解しよう♪
- ② 考え方「ジレンマ」を学ぼう♪
- ③ いろんな視点から「国際問題」を考えよう♪

### 学びのMy Plan

個人目標				
	何を	どうやって	評価	評価の理由
1			A B C	
2			A B C	
3			A B C	
ふりかえり 目標の				

### チェックリスト

**1** 国際社会のさまざまな問題をおさえよう♪

- 「学習のまとめ」完成&提出♪
- 国際問題の画像を添付♪
- 完全学習P72・73の完了♪

**2** いろんな視点から「国際問題」を考えよう♪

- ルート&プランシート 記入完了!
- 学習のまとめシート 記入完了!
- チャレンジシート 提出完了!♪

生徒が学習の見通しを持ち、計画・実践するための発表ノートです。個人目標には、単元を通してどのような態度で学ぶのか、何ができるようになりたいのか、どんな力を身に付けたいか、を記入します。そのためには、教師がどのような内容を学ぶのか、どんな学習活動を行うのか、などを生徒に提示しなければなりません。単元によっては、言語活動や発表活動を取り入れ、表現力の向上を図ります。

【写真2:学習のまとめ(発表ノート)】

**国際社会のさまざまな問題をおさえる!** 教P192~203

**「学習のまとめ」を完成させよ!**

**「地球環境問題」** p192~p193

- ・(1)…二酸化炭素などの(2)ガスが増えることで起こる
- ・地球環境解決のための国際協力
- 1992年:国連環境開発会議=(3)
- 1997年:(4)が採択
- 2015年:(5)が採択

**「資源・エネルギー問題」** p194~p197

- ・(6)…石炭、石油などの資源
- ・日本の発電は多い順に、(7)力、(8)力、(9)力である
- ・(10)…二酸化炭素を排出しない発電エネルギーの総称
- ・新しいエネルギー資源=(11)と(12)

**「貧困問題」** p198~p199

- ・(13)…栄養不足により生存が難しい状態
- ・世界の人々の自立を支える取り組み
- 途上国の人々の労働に見合う公正な価格で貿易する=(14)
- 貧しい人々の新事業をのために、少額のお金を貸し出す=(15)

**国際問題の証拠画像を保存せよ!**

No.	Mission!	Check♪
1	砂漠化、大気汚染、酸性雨、オゾン層破壊、海洋汚染の画像や資料	
2	世界の二酸化炭素排出に関する画像や資料	
3	化石燃料の埋蔵量と可採年数、発電量の内訳などの画像や資料	
4	日本のエネルギー供給もしくは発電量に関する画像や資料	
5	世界の栄養不足・貧困・飢餓などの画像や資料	

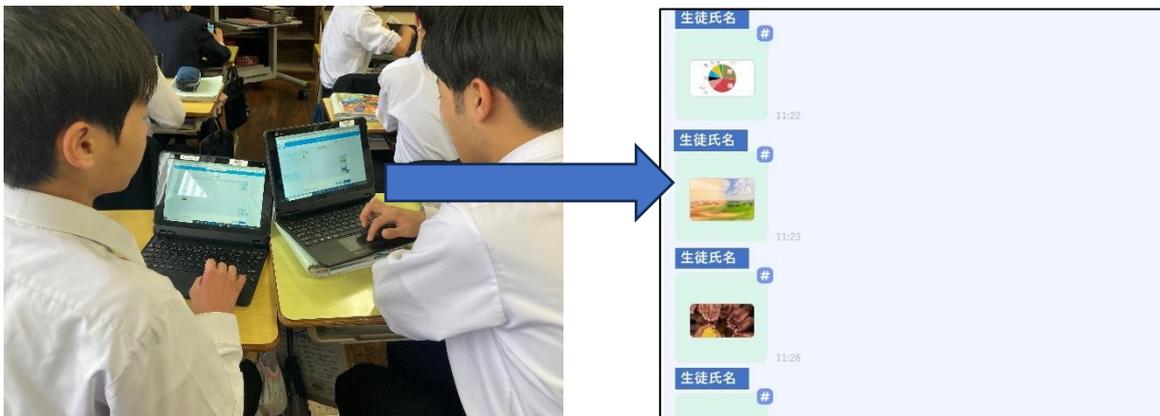
↓

- ① インターネットで検索したり、教科書で画像・資料を見つけよう!
- ② 画像や資料をダウンロードし、次のページに貼り付けよう!
- ③ それぞれの画像・資料がどのNo.か分かるように工夫しよう!

1	5	9	13
2	6	10	14
3	7	11	15
4	8	12	

単元のポイントが掲載された発表ノートです。授業において、「先生が説明して理解するのではなく、自分で調べたり、分からないことを自ら聞いたりして知識を定着させてほしい」と伝えています。しかし、まだ中学生ですので教科書のページ番号や手順を明確にするなど、きめ細かな支援や手立ては必要です。しかし、教師がつかずいている生徒に支援する場面もありますが、生徒同士で「これどういうこと?」「それはね・・・」という会話も聞かれましたので、“授業時間をより多く生徒に委ねる”ことが「学びとる教育」の実現にはポイントになると思われました。

【写真3:グループメモで画像を共有】



グループ機能を自由に使ってもよいことを、普段から伝えておくことで、生徒自ら学びを広げる様子がうかがえました。また、1人もしくはペアなど、学習形態も状況に応じて生徒に自由に判断させることで、適切な学習方法を自然と取捨選択するようになりました。

【写真4:個別最適な学びと協働的な学びの】



生徒は学習計画に沿って学びを進めていきます。写真手前の生徒は1人で課題の解決に挑戦しています。また、全てをタブレットに頼るのではなく、教科書を使って調べる様子も分かります。一方、奥の2人の生徒はペアで活動しています。この後に、写真の4人でグループをつくり、学びの成果を共有したり確認させたりすることで、誰一人取り残さない授業づくりを目指します。

【写真5:単元のまとめ(発表ノート)】

**STUDY** 地球社会と私たち「さまざまな国際問題」

①あなたは外務省の職員です。世界の「地球環境問題」「資源・エネルギー問題」「貧困問題」のいずれかについて、日本はどう解決に貢献するか、レポートを作成しなければなりません。

②それぞれ調査をすると、「地球の環境や資源、貧しい人々を守るのが優先だ」と「自分の国の発展が優先だ」という意見が対立していることが分かりました。

③日本は先進国ですので、世界的には何らかの支援が求められます。しかし、少子高齢化による財政問題など、課題も多くあります。

事実(Data)

地球環境・貧しい人々  
自国の発展・課題解決

見方・考え方

主張(Claim)

事実(Data)

地球環境・貧しい人々  
自国の発展・課題解決

見方・考え方

主張(Claim)

理由付け(Warrant)

理由付け(Warrant)

答え・結論

これは単元のまとめとして記入するノートです。左側のツールミン図式には「先進国」として、右側には「発展途上国」としてのまとめを、第2時の活動を振り返りながら記入します。生徒は、「社会的ジレンマ」という見方・考え方を習得した上で、日本外務省職員の立場になって結論を出します。

ICT を活用するメリットの一つは、記述することのハードルが下がることです。容易に訂正ができるため、生徒たちが長い文章でも根気強く記入する様子が見られました。また、SKYMENU Cloud の気づきメモから発表ノートに転送したり、他者と協働して発表ノートを作成したりする機能を活用することで、効率的かつよりよい結論の創造が可能になります。

## 《実践を振り返って》

成果と課題は以下の通りです。この成果から「学びとる教育」の実現に近づけたと感じています。

○生徒たちにルート&プランシートを作成させることで、自立的な学びができたこと。

➡教師が具体的な見通しを持たせたり、チェックリストで振り返りをさせたりする必要もあることが分かりました。

○学ぶ手法や調べる内容を、生徒に選択・決定させることで、個別最適な学びを展開できたこと。

➡任せきりにするのではなく、グループ機能を活用して情報や考えを共有させたり、教師がキーとなる見方・考え方を習得させるための発問をさせたりして思考するなど、学習段階や生徒の様子によって、適切な支援・手立てを講じる必要がありました。

▲さまざまなスキル（課題解決のために調査する、思考ツールを正しく使う、論理的に説明する、見通しを持って計画する、など）や学習規律が確立されていないと、時間やきめ細かな支援が必要となり、自由進度学習や課題選択学習は成立しないのではないかと感じた。

[対策]①例えば、1年生のはじめの段階は教師主導の時間を多く設定し、求められるスキルを身に付けさせたり、学習規律を確立させたりするなど、段階的に生徒主体の学びを展開する。

②地理的分野の世界の諸地域や日本の諸地域では、課題選択学習が実践しやすいため、例えば、年度初めにこれらの単元を先行実施することで、学び方を学習させるなど、年間指導計画の工夫をする。